

2003●No.29 銅管広報誌

カパー・ストリーム

Copper Stream



生まれかわる東京を支える銅配管

汐留・六本木・品川東口 再開発プロジェクト

カパー・ビッグ対談
テニスを極めて



沢松奈生子 氏



渡邊康二 氏



生まれかわる東京を支える銅配管

汐留・六本木・品川東口 再開発プロジェクト

2000年、東京都は「50年先を展望した東京の望ましい全体像を明らかにする」として「東京構想2000」を策定しました。具体的には、21世紀の東京都の望ましい姿として

- 1200万都民が生き生きと暮らす生活の場
 - 活発な経済、文化活動が営まれる活力と魅力にあふれた都市
 - 世界中の人々を魅了し、ひきつける「千客万来」の都市
- をつくり上げようというものです。

今号では、この「先客万来の世界都市・東京」にふさわしい街づくりに取り組む3つの大型プロジェクトを取り上げました。

都心の巨大複合都市—汐留シオサイト

JRの新橋駅と浜松町駅の間にある汐留地区では、旧国鉄汐留荷物駅と周辺31ヘクタール(東京ドーム約7個分)という広大な土地に再開発の大プロジェクトが進められています。

明治初年「汽笛一声～」で知られる新橋ステーションがこの汐留に建設され、華やかで活気のある街となりましたが、時が移り、旅客輸送の機能が現在の新橋駅に移されると汐留は貨物専用駅となり、1986年廃止され、貨物ターミナルとなっていました。この地域を再開発するための事業は、1995年から始まり、すでに道路整備がすすめられ新交通システム「ゆりかもめ」や地下鉄大江戸線の新駅も開業し、交通アクセスは格段に向上しています。

緑ゆたかな浜離宮恩賜公園や東京ウォーターフロントの景観を望める立地であることからビジネス、商業、文化、居住などの機能を併せ持った複合都市として開発がすすめられています。すでに浜離宮に面した地区では電通や共同通信の本社オフィス、日本テレビ放送センター、ホテル、都市整備公団の賃貸住宅など、10棟以上の超高層ビルが建設されます。

併せて公共歩行者道・歩道橋を連結するオープンスペース、ペDESTリアンデッキ、サンクンガーデンの整備が進められています。汐留は、日一日と変貌を遂げ、2007年にすべての計画を完成、遠からず人口5万人を有するビッグシティへ生まれ変わります。

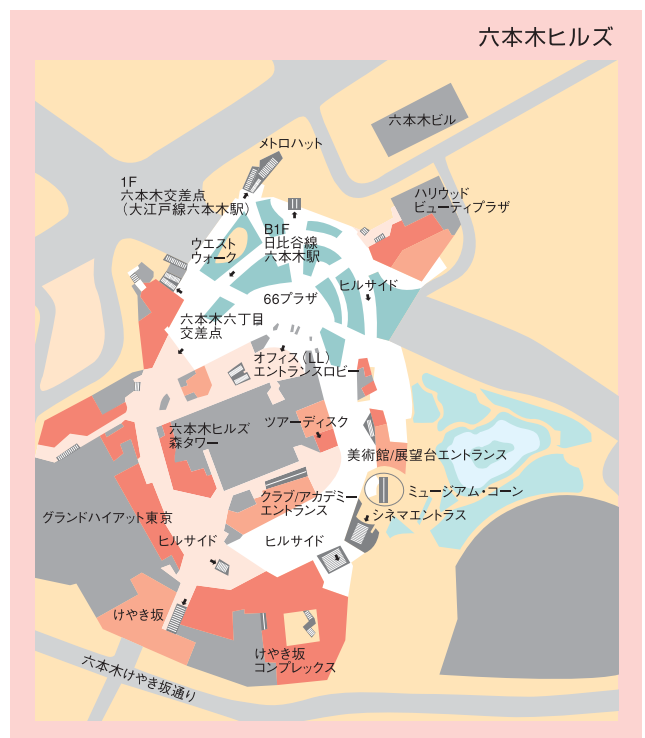
民間最大の再開発プロジェクト—六本木ヒルズ

六本木周辺は地下鉄南北線や大江戸線の開業で飛躍的にアクセスが向上した地域です。この4月、ここに誕生したのが大々的にマスコミにも取り上げられた「六本木ヒルズ」。

テレビ朝日の放送センターを中心とした約11ヘクタールの区域

で、完成後の総延床面積は約72万㎡、民間としては権利者約400名から成る国内最大級の再開発プロジェクトです。計画の発端は、老朽化した放送センターの立て替えで、これに併せ、周辺の低層密集市街地の再編を行なおうと1986年からスタートしています。

開発事業のコンセプトは、六本木を「さまざまな人々が1日を通じて働き、住み、憩う、東京の新しい都市像としての“文化都市”へ再生するというもの。地区を3区画に分け、北街区には六本木ヒルズのメインゲートとして、地下鉄六本木駅と地下連絡通路で



■ 世界で出会う銅の真価



世界のテニスプレーヤーとして素晴らしい成績を残した沢松奈生子さん。その表情は、これまでにないやさしい印象を持ち、明るく、ハツラツと、人を惹きつける魅力にあふれています。数々の勝利でテニスの一時代を築きあげた渡邊康二さんとともに、現役時代のお話や、銅管との関わりについてお話をさせていただきました

世界を巡って知る日本製銅管の質の高さ

司会 今日は、お二人の現役時代のお話をまじえながら、気楽に、自由に、お話していただければと思います。

渡邊 奈生子さんの叔母さんである和子さんとお母様の順子さんとはいっしょにヨーロッパ遠征をさせていただいたことがあるんですよ。

沢松 母からその遠征時のことは、よく聞かされています。

渡邊 奈生子さんがウィンブルドンに出場された時はどこに泊まっておられたんですか。

沢松 ウィンブルドンの時は家を借りて、滞在していました。

渡邊 イギリスの家には、たくさんの銅管が使われているんですよ。銅は安全ということから、欧米では銅管が主流なんです。日本では鉄や樹脂などの配管が使われていますが、水道用配管にも銅管が使われています。

沢松 日本だけが違うんですね。

司会 渡邊さんは銅管との関わりが深いんですね。

渡邊 主に銅管の輸出に関わっていました。テニスで培った多少の英語を生かして、臆せずに海外に行くことができました。そのとき感じたのは、日本の銅管の品質は世界一だということです。どこに行ってもNo.1だという誇りを持っていました。最近では海外の製品も出てきていますが、やっぱり一番だと思います。銅管はエジプト時代から使われていたんですよ。

沢松 そうなんですか。歴史がとても好きなので驚きですね。

身近に銅の実力を知った炊飯器



渡邊 遠征先の欧米のホテルなどでは、洗面所のタオル掛けが熱かったでしょう。

沢松 熱かったです。だけどもあれがもう大好きで、寒くてもタオルを掛けておけば、シャワーを浴びた後に温かいタオルで顔がふけて、とても好きでした。あのタオル掛けがどうしても欲しくて、日本で探したんですけどなかったんです。

渡邊 あの金色のタオル掛けは銅なんですよ。黄銅です。

イギリスのペニー(硬貨)も銅ですよ。

沢松 お金は見えますが、配管など、普段見えないところで、銅は使われているんですね。今回、身近にある銅ってなんだろうと考えてみたのですが、私が今使っている炊飯器は銅釜なんですよ。

渡邊 どうして銅釜炊飯器を買おうと思ったんですか。

沢松 私けっこう電化製品が好きでよく見るんですけど、あきらかに他の炊飯器と違ったんですよ。やっぱりおいしいごはんが食べたいと思って、奮発して買いました。実際に家にあった普通の炊飯器と銅釜の炊飯器で炊き比べをしてみたら、もうぜんぜん味が違って、感動しました。それで、結婚祝いは必ず銅釜の炊飯器にしています。

渡邊 きっとそれは銅の熱伝導性の良さが、お米をおいしく炊き上げるんですね。

司会 身近なところで、まだありますよ。沢松さんの母校の神戸松蔭女子学院大学…

沢松 わかりました。数年前に新しくした大学建物の屋根ですね。確かに学長が自慢していました。

渡邊 銅屋根は最高級の屋根ですよ。

沢松 そうなんですか。神戸でもけっこう目立つ建物で山側にあるんですけど、海側から見上げてはすぐわかるんですよ。

司会 神戸ではその他にも、通りの町名を示す掲示板が銅でできているんですよ。

沢松 銅だとは知りませんでした。そのサインは神戸ではあちこちにありますが。旧居留地などにもたくさんありますね。建物や景観にとってもマッチしていると思います。

わき目もふらず走り続けた現役時代

渡邊 話が変わりますが、引退が早かったと後悔はしてませんか。

沢松 ウィンブルドンのセンターコートを見ると、続けていればここに立つチャンスがあったかもしれないと思ったりしますが、それ以外はまったくないです。やるだけやったという感じが強いんです。

渡邊 遠征はたいへんですもんね。集中力を維持しないといけないから。

沢松 当時はたいへんと思っていなかったですね。たいへんと思っていたらできなかったと思うし、一生懸命走り切ったという感じがします。15歳の時から遠征に出ていましたので、年齢的には早かったのですが、年数としては10年間でくじりがついたという感じがします。

渡邊 奈生子さんのお母様らといっしょに遠征をまわっていた頃は、おいしいものを食べにいたり、他のことを楽しむ余裕がありました。今は練習をとにかくやって、家に帰っても食事に気をつけたり、我々の時とは違うなと思いますね。

沢松 今、引退して考えてみると、自分はかなり根詰めてやっていたと思います。オフの期間でも毎週ランキングをチェックして、誰かが優勝すると、ああランキングを抜かれるんじゃないかと心配したり、オンとオフの区別がなく、心が休まる日は一日もなかったです。引退してはじめてもうこれでなにも考えなくてすむと、本当のオフの気分になりました。

渡邊 私は今のやり方では選手が疲れきってしまうのではないかと心配しています。

沢松 ツアーをまわっていて感じたのは、トップ選手であればあるほど、そういう糊しろというオフの部分があるんですね。全仏やウィンブルドンで、私が早く夕食を済ませて寝ようとする時間に、ヒンギスやグラフなどはその時間から外へ出かけるんです。じゃあ次の日の試合結果はどうかというと、私は一生懸命やりすぎて負けて、彼女は抜くところを抜いて、でもテニスコートでは集中して勝っている。そういうオフの部分はアスリートには必要ですね。



10時就寝6時起床。沢松家は徹底した健康一家

渡邊 基本的な体力というか寝不足に対する体力が外国の方と日本人は違うような気がしますね。

沢松 少ない睡眠でも集中できる人がいますよね。でも、私は寝ないと駄目ですね。我が家は10時に寝て6時におきるという家でしたから、実際おじいちゃんが10時で「何時だと思っているんだ」と、電話をかけてきた人にどなっている

のを何度も見えています。本当に絵に描いたような健康家族で、炭酸飲料もファーストフードも、お湯を入れて3分のできるものも食べたことがなかったんです。

渡邊 変なもの食べてごまかすということがなかったんですね。

沢松 私にとってはその生活があたり前だったんです。私は母に似て生真面目で、駄目といわれたことは駄目でした。

渡邊 そういえば叔母さんの和子さんは飛行機では何も食べなかったですね。ミルク、チーズも食べなくて、よくあんな体力があるなと思いました。なんか沢松家って凝り固まるっていうか(笑)。集中力が強く、こだわりがあるんですね。

沢松 テニスプレーヤーって皆そうですね。自分のスタイルを持っていて、私もいろんな人にアドバイスを受けてきましたが、最終的にコートに立った時は、自分のテニスが世界一と思ってないと、やっぱりできないんです。

渡邊 今の時代の人には、精神力が強いんですね。

沢松 そんなことないですよ。無理やりそう思っていたふしもありますし、でもあれこれ悩んでいると、世界の選手はそこをついてくるんですね。

渡邊 強い人は「負けるはずがない」という気持ちでのぞんでいるんでしょうね。「勝ちたい」という気持ちではなく。

沢松 ただ、よく選手同士話していたんですが、自分が一番という気持ちはコート上で必要ですが、コートをはなれてもそれがついてしまったら良くないと思います。スポーツ選手とはいえ、一人の人間なのでから。

「私にはこれしかない」

震災直後に生まれた強い精神

司会 沢松さんが一番印象に残っている試合はなんですか。

沢松 95年の全豪ですね。私のテニス人生の一番の悩みは、恵まれた環境に育ったということで、ロシアや旧共産圏の選手など、用具を買うにも困るという環境の選手と対戦すると、自分にはなにか欠けていると感じました。どうやったらハングリー精神を持てるのか。プラスアルファがないと、グランドスラムのベスト8に入ることは難しく、大きな壁でした。悲しいことですが、阪神淡路大震災が全豪オープンの際に起こって、実家は全壊し、はじめて境地に立たされました。きれいな好きなおばあちゃんがお手洗いにも行けない状態だということを聞くと、ホテルのトイレに行くにも、ごはんを食べるのも申し訳なく、自分が許せなく泣いてしまうという状態でした。でも、コートに立った時は、「私にできることはこれしかない」という気持ちでのぞめました。その気持ちが、ベスト8という結果に結びついたんだと思います。でもやはりもう二度とあんな思いは味わいたくないです。



「常に新しい目標をめざして、輝いていたい」

司会 沢松さんのテニスのイメージとはどのようなものですか。

沢松 昔のテニスプレーヤーの方って、今みたいにどこからでもエースを決めるというのではなく、とにかくフォームがきれい。テニスは優雅なスポーツというイメージがあり、その優雅なイメージにぴったりくるのが渡邊康二さんだと思います。母からは「康二さんのような素敵の人がやるのがテニスだ」と言われてきました。ですから康二さんは遠い存在だったんですが、引退してからテニス協会の関連でお会いする機会が増え、素顔の渡邊康二さんを知るようになって、最近ちょっとうれしいなと思っています。

司会 渡邊さんが専務理事を務めていらっしゃるテニス協会の仕事はどのようなものなんでしょうか。

渡邊 テニス協会は、開催地の選定など国を代表する試合にはすべて関わります。以前は選手とやり合うこともありましたが、だんだん選手と多く話す機会が増え、選手の立場を考えるようになり、今はうまくいってます。だから、現役の頃はちょっと沢松奈生子さんは恐いイメージがあったのですが、最近はいろいろお会いすることも多くなって、ハキハキして、歯切れがいいし、かわいらしいイメージを持っています。本当に、今、大活躍ですよ。

沢松 今は、大学の講師やテニス協会の仕事やJOCの仕事、国体の準備などをやらせていただいています。あとはプロ仲間とボランティア活動をしたりしています。

司会 沢松さんは引退後から、1万人とプレーをするということを目指されているそうですね。

沢松 引退するときに、辞めたらなにもなくなってしまいうるで恐かったです。現役時代は、勝負の世界のテニスが私にとって生きがいのあったのですが、でも、辞めた後もテニスに関わっていれば生きがいがあるんだと思ひ直し、1万人を相手にプレーをしようと目標を立てました。現役の時の目標は、それこそ命がけでしたので、今の目標とは温度差がありますが、でも私なりに常に目標は持っていきたいと思っています。常に目標を持っていれば、自分自身が輝いていられるんじゃないかと思います。

司会 次の目標が何になるか楽しみですね。

今日は、渡邊さんと沢松さんの現役時代のお話や、また銅管や銅釜の話など、興味深いお話を聞かせていただきました。影ながら今後のご活躍を応援させていただきます。ありがとうございました。



渡邊 康二(わたなべ こうじ)

1942年1月生まれ

中学1年生からテニスを始める。全日本選手権大会シングルス優勝3回(1964、1967、1968年)、全日本選手権大会ダブルス優勝4回(1965~1968年)、デビスカップ代表選手8年(1963~1970年)、デビスカップ監督4年(1971~1974年、1971年には新監督として豪州を破り、50年ぶりの悲願を達成する)、ウィンブルドン、フランス選手権大会出場(1964~1971年)などの成績を残している。

現在、住軽商事(株) 常任監査役、(財)日本テニス協会専務理事。



1965年、デビスカップインド戦の渡邊康二選手

沢松 奈生子(さわまつ なおこ)

1973年3月生まれ

祖父から続く名門テニス一家に生まれ、5歳からテニスを始める。DHLシンガポールオープン優勝(1990年)、ボルボ女子オープン準優勝(1991年)、ストラスブール国際準優勝(1992年)、ピクトリアン女子オープン準優勝(1993年)、ストラスブール国際優勝(1993年)、シンガポール・クラシック優勝(1994年)、全豪オープンベスト8(1995年)、ダナムオープン優勝(1997年)などの成績を残している。

1998年、モニカ・セレスとの大激戦を最後に現役ツアー生活から引退。現在、(財)日本オリンピック委員会事業広報委員、のじぎく兵庫国体スーパーアドバイザー、日本テニス協会強化委員、テニス解説者、神戸松蔭女子学院大学講師。



1995年、全豪オープンの沢松奈生子選手。阪神淡路大震災で自宅が全壊するなかでベスト8入りを果たした

直結する駅前プラザを整備し、店舗や学校などで構成される複合ビルを配置。中央街区にはランドマークタワーとなる54階建ての「六本木ヒルズ森タワー」。その最上階に文化発信源のシンボルとして世界のアートを展示する展望美術館を擁し、ほかにホテル、劇場などがお目見えしています。旧毛利庭園の池や緑をパブリックスペースの「憩いの場」として置き、元麻布の閑静な住宅地につながる南街区には多様な年齢層やライフスタイルに対応するため、賃貸を中心に超高層から中低層まで、約800戸の住宅を整備。居住人口は従来の約800人から約2,000人に、昼間就業人口は15,000人になっています。

「夜の街」としてのイメージが強い六本木が「文化発信地」として大きく生まれ変わりました。

東海道新幹線「品川駅」開業とともに 開発のすすむ東口再開発プロジェクト

この10月1日、東海道新幹線に新しく「品川駅」が開業します。現在、東京駅発着が限界に達した新幹線の運行を強化するため、品川駅構内にあった新幹線車両基地を利用し、在来線ホームと平

行するような形で、2面4本のホームにより、品川始発が可能となります。

この結果、現在1時間あたり11本の新幹線運行が15本まで可能となります。まさに東京の新しい南玄関に生まれ変わります。

この計画とともに進められているのが東口地区再開発プロジェクト。貨物駅跡に建設された「品川インターシティ」の前には、長さ400m、幅45mに及ぶ歩行者専用の大空間(品川セントラルガーデン)が設けられています。これをはさんで今建設のすすむのが、約5.3ヘクタールの敷地に140m級の超高層ビル5棟とマンション2棟が軒を並べて建つ「品川ランドコムズ」。すでにオフィスビルは完成し「品川インターシティ」と合わせ、20本近い超高層ビルが高さを競っています。

以上東京で再開発のすすむ3つのプロジェクトの概略をご紹介してきましたが、これらのプロジェクトで建設されているビルの空調用冷媒配管に、また、ホテル棟などには給水・給湯用配管として銅管が大量に使用されています。

新しく生まれ変わる東京—その陰でも、やはり銅管が大活躍しているのです。

汐留再開発プロジェクト



東京港側より望む



ビルを結ぶペデストリアンデッキ



復元された明治時代の「新橋駅」



憩いの場「亀の噴水広場」

六本木ヒルズ



テレビ朝日棟より森タワーを望む



旧毛利庭園



六本木ヒルズアリーナ



ブロンズ製モニュメント「ママン」

品川東口再開発プロジェクト



高さを競う超高層ビル群



品川セントラルガーデン



竹林があちこちに配される



セントラルガーデンに置かれたモニュメント